

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業提案書（基本情報）

1. 提案事業概要

【事業名】	東アジアにおける混濁大気の変容が気候に与える影響評価に関する国際シンポジウムの開催
（英語名称）	Proposal of an international symposium on Climate Change Studies through Activities of SKYNET and Virtual Laboratory for Climate Diagnostics
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	久世宏明、教授、センター長 千葉大学環境リモートセンシング研究センター
【事業形態】*	（１）国際集会の開催
【実施期間】†	平成22年10月21日(木)～平成22年10月23日(土)（3日間）
【実施場所】†	沖縄県名護市ホテルゆがふいんおきなわ
【参加国・地域】†	モンゴル、中国、韓国、シンガポール、タイ、インド等 9ヶ国・地域
【事業概要】	
<p>次の国際シンポジウムを提案する； “The 16th CERE S International Symposium on Climate Change Studies through Activities of SKYNET and Virtual Laboratory for Climate Diagnostics”</p> <p>発展著しいアジア地域、とりわけ東アジアを中心とした国々における大気浮遊物質の変容がこの地域と全球の気候にどのような影響をもたらしているか、この地域を中心としたエアロゾル・雲・放射に関する研究者を招いて、これまでの成果と今後の研究連携の強化を目指した議論を行う為に、国際シンポジウムを提案する。</p> <p>千葉大学環境リモートセンシング研究センター(CERE S)は、国内外研究機関と協力して、エアロゾル・雲の放射影響（気候影響）に関する東アジアを中心とした SKYNET 地上観測・解析ネットワークの中心として活動を行ってきた。この活動は、GEOS S への貢献として文部科学省地球観測システム構築推進プランの一つとして採択され、その結果、観測ネットワーク化による東アジア域のエアロゾルに関する安定高品質データを提供してきた。また、CERE S では全球静止気象衛星を中心とする衛星データの収集・解析と公開による、衛星観測、気候モデル研究グループとのバーチャルラボラトリー構想に基づく、大学間研究連携（東京大学、名古屋大学、東北大学、千葉大学）を図ってきている。</p> <p>本提案は、（１）4大学連携によるバーチャルラボラトリー活動の4年目であり、成果の中間まとめとエアロゾル～雲～降水過程に関する今後の国際的な研究展開を打ち出す時期でもあること、（２）対となる観測ネットワークSKYNET 活動の最終年度であること、からエアロゾル・雲の変容がアジア域の気候に与える影響に特化したシンポジウムとしたい。地上観測・衛星解析・気候モデルの三位一体となった研究体制が益々重要になる一方、研究対象の高精度化による研究細分化の流れもあり、横断的な研究視野が必要とされている。本シンポジウムは、特にアジアを中心としてエアロゾル・雲・降水過程研究ネットワークの深化に繋がる研究枠組の拡大に主点をおいたシンポジウムにしたい。</p> <p>上記を達成する為に、開催場所は SKYNET の国内の代表的な大気観測施設（super site）のある辺戸岬に近い沖縄名護市で実施することとし、会議終了後辺戸岬観測施設を訪問し、継続したモニタリング観測の重要性を内外の研究者にアピールしたいと考えている。</p>	